

島根県立中央病院で診察を受けられる患者さんへ

当院では、以下の研究を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、ご自身の試料・情報を研究目的に利用されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にご連絡ください。

ただし、すでに解析を終了している場合には研究データからあなたの情報を削除できない場合がありますので、ご了承ください。

研究題目	日本のくも膜下出血頻度と生活習慣の関連性の多施設長期観察研究 Japan Incidence of SAH study (JIS study)
研究期間	2020年1月7日 ～ 2027年12月31日
対象患者	青森県、秋田県、島根県、高知県で発症したくも膜下出血患者さん
調査対象期間	1980年1月1日 ～ 2019年12月31日
研究機関の名称	別添のとおり
当院研究責任者	脳神経外科 井川 房夫
意義・目的	<p>世界の分析研究では、未破裂脳動脈瘤の保有率は約3.2%で地域による差はありませんが、日本のくも膜下出血の頻度は世界トップレベルに高く、日本の未破裂脳動脈瘤の年間破裂率は0.95%/年で、欧米より2.8倍破裂しやすいとされています。その原因は人種差などが考えられますが、アジア人にくも膜下出血の頻度が高いとは限らず、その詳細な原因は解明されていません。</p> <p>最近では、日本のみくも膜下出血頻度が増加しているという報告がある一方、日本の各地域のデータでは減少している実情があります。</p> <p>このことから、日本人のくも膜下出血の頻度の変化、破裂率の変化を追跡し、原因を追究することは必須であると考えます。</p> <p>島根県出雲市では以前よりくも膜下出血頻度について調査しており、本研究において日本の各地域との長期推移と生活習慣の関連性を究明します。</p>
研究内容	<p>対象患者さんにおいて、「利用・提供を受ける試料・情報の項目」に示す情報について、弘前大学大学院医学研究科、秋田県立循環器・脳脊髄センター、高知大学医学部より当院へ電子ファイルで提供頂きます。</p> <p>個人を特定できる情報は収集しません。</p> <p>各地域の年次男女別5歳区切りのくも膜下出血の死亡人数、各地域の年次5歳区切りの男女別人口から年齢調整死亡数(基準となる人口の年齢構成を考慮して補正した死亡率)を調査し、変化を明らかにします。</p> <p>また、高血圧、喫煙、アルコール摂取、高脂血症治療薬投与の長期変化を調査し、「人口動態統計」、厚生労働省「特異低健康診査・特定保健指導の実施結果に関するデータ」、「NBDオープンデータ」との関連性を統計学的に検討します。</p>
利用・提供を受ける試料・情報の項目	各地域のデータベースによる、くも膜下出血入院患者数推移、人口推移、年次男女別5歳区切りのくも膜下出血の死亡人数、各地域の年次5歳区切りの男女別人口、高血圧、喫煙、アルコール摂取、高脂血症治療薬投与数 等
試料・情報の他機関への提供有無	<input type="checkbox"/> あり 提供方法： 海外の機関への提供 <input type="checkbox"/> あり・ <input type="checkbox"/> なし <input checked="" type="checkbox"/> なし
個人情報の保護	当院における個人情報保護の基本方針に準じて行います。
結果の公表	投稿論文として複数回公表する予定です。

***** お問い合わせ先 *****

島根県立中央病院

脳神経外科 井川 房夫

電話：0853 - 22 - 5111

事務担当：臨床研究・治験管理室

電話：0853-30-6590（直通）

研究組織

<研究代表者>

島根県立中央病院 脳神経外科 医療局次長 井川 房夫

<解析、論文作成>

広島総合病院 脳神経外科 松田 真伍

<統計解析>

京都大学大学院 医学研究科 社会健康医学系専攻 健康情報学分野 教授 中山 健夫

京都大学大学院 医学研究科 社会健康医学系専攻 特定研究員 後藤 禎人

<データ提供機関>

弘前大学大学院 医学研究科 脳神経外科学講座 教授 大熊 洋揮

弘前大学大学院 医学研究科 脳神経外科学講座 嶋村 則人

秋田県立循環器・脳脊髄センター 院長 石川 達哉

高知大学医学部 脳神経外科 教授 上羽 哲也

高知大学医学部 脳神経外科 講師 福田 仁

順不同